

# 茶碗の中の宇宙

## 樂家一子相伝の芸術

スペシャル対談

# 十五代 樂吉左衛門

RAKU KICHAEMON XV



# 中田英寿

NAKATA HIDETOSHI

十五代 吉左衛門  
Kichisemon XV



千利休の承めに応じ、初代長次郎が樂焼を興して約450年。今、樂家歴代の名碗の数々がかつてない規模で展覧されている。その数約150点。このほど、近年日本文化の発信に力を注ぐ中田英寿氏が京都市立近代美術館に來館し、十五代樂吉左衛門氏と、今という時代の中で見つめた樂焼について語り合った。



初代 長次郎  
萬葉茶碗 長次郎(東京文化財)  
桃山時代(16世紀) 個人蔵

### 茶碗が語る 「個」と「時代」

中田 「樂茶碗」長次郎という名前しか知らなかった頃、外国で友達に「RAKU」についてよく尋ねられた。それとも一つのきっかけとなって、日本各地の伝統工芸に出向く旅を始めたんです。4、5年前に樂さんとお近づきになつて本物の樂焼を目にし、以来、何度見ても新たな発見があります。この展覧会でも歴代の茶碗が一堂に並ぶのを見て、伝統的なイメージの樂焼だけれど、実は代ごとの中に革新があり、かつ継承されていくのを感じました。樂はやはり初代長次郎(在)の姿勢性を排除した、個性さえも削ぎ落とし、茶碗の存在が大きいですね、その後の各代

一つの茶碗から、歴代の時代を、生き様を感じる。これがおもしろいです。

中田英寿



1977年生まれ。サッカー日本代表として98年から三大大会のワールドカップに出場。2006年に現役を引退後、100以上の国や地域を旅した経験から、08年にTAKE ACTION 2008+11キックオフを立ち上げ、一般財団法人TAKE ACTION FOUNDATIONを設立。同年、27歳でサッカー、国内47都道府県をまわり、日本文化に関わるさまざまなプロジェクトを展開。

樂 おもしろい例えですね、言葉でみれば、ノンコウが生きた歴史年間(ちろろー1601)は海外に対して日本が非常に開かれていた時代、そのためか彼の作品はモダンですね。土を非常に薄く削るので、軽やかもある。中田 そういふ特徴からアンコウはどんな人だったのだろうか。すっとした美男子だったんじゃないかな。などと、作り手の姿を想像するのもおもしろいです。樂 そう、それが茶碗の世界なんです。特に樂焼はたつた一人で作る(個)の焼きも、良くも悪くも個人の生き様が如実に現れます。一子相伝と言いますが、樂家は、軸業の配合を子に教えない、そのために生まれる先代への反骨心

も、個性を動長している気がしますが、個性が強いから、さらには「家」にあつたら、使いたくないとき、それが自分の生活に入ってきたとき、とれだけ自分が幸せになれるかを考えながら見ています。樂 そうですね、「かっこいい」とか「好き」で作品を見ていなくて、そうしたら「これ、好き」だと、全く違うところが好きだと、自分の中の「好き」に、そんなモードが生まれます。その立ち止まり、なぜこの両方の茶碗が好きなんだろ、と感じて、自分の中の「好き」を、自分自身の姿が浮かび上がってくる。茶碗に自分の姿を見るのです。中田 情熱が溢れる時代だから、と「美しい」と思うものに出合えば、自分の感覚の確認作業になります。氣に入らない作品から、それが生まれる時代背景に興味をわいてきたりもします。樂 ぜひ若い人たちに、率直な視点で、茶碗に出合ってもらいたいですね。

### 「美しい」を探して

中田 実は僕、ヨーロッパに行った頃はほとんど美術館へ行かなかったんです。デザインやファッションに興味はありましたが、アートには近寄りたがりなく感じていました。特別な知識が要ると思うと、アートの存在になつていきません。樂 さらに、それに現代の日本では「樂つてうだ」と定義してしまいがちなんです。私と聞いたら、固められた概念と聞いたら、自分の中の樂焼のイメージを打ち解つていきたくて思っています。



三代 通入  
萬葉茶碗 萬葉(東京文化財)  
江戸時代(17世紀) 樂家蔵

注1: 初代 長次郎(7-1589) - 萬葉の始。樂焼は萬葉三郎キョウフとしており、それはカラカラな色釉が特徴だが、初期の煎茶を煮る、黒褐色の茶碗とよび、自然土の色を好んで塗られた。注2: 三代 通入(1599-1656) - 萬葉、フツウ、本阿弥次郎(長次郎)の、後の萬葉の流儀に似る。その茶碗は先代が「萬葉」(影響を受けた)と見られ、モダンで斬新な作りが特徴。



「好き」という率直な感性に耳を傾け、茶碗と向き合ってみてください。

十五代 樂吉左衛門

1949年京都市生まれ。樂焼十五代長次郎。東京藝術大学彫刻科卒業。イリア留学を経て1981年、吉左衛門興業、萬葉の伝統を継承しつつ、現代陶芸作家として「吉左衛門文化」の数々の萬葉会を開催し、国内外で注目を集める。作品は東京国立近代美術館、アムステルダム・ファン・ゴッセン美術館などの国内外の美術館に。

開通イベント 連続対談 十五代 樂吉左衛門と対談します。1/29日 東京国立博物館主任研究員 三笠法子氏 2/2 5日 アーティスト Julie Brook (ジュリアー・ブルック)氏  
会場/京都市立近代美術館 1階ロビー 各日午後2時~3時、先着150席 ※当日午後10時より1階受付にて整理券配布します。 観覧無料(本展の観覧券が必要)